



き

輝なんせ鳥取

2011.12
 第16号

東部初の女性消防士



目次

■ <small>ひと</small> 女と男 <small>ひと</small> とのハーモニーフェスタ …………… 2	■ 訪問取材 “おじゃましま～ず” …………… 5 「(株) 原田建設」
■ 男女共同参画フォトコンテスト …………… 3・4	■ <small>ひと</small> インタビュー女と男 <small>ひと</small> …………… 6 鳥取消防署 加藤 貴子さん

次号は鳥取市男女共同参画センター「輝なんせ鳥取」の業務内容も掲載したいと思っております。是非ご覧ください。

～男もHAPPY!! 男女共同参画～

9月25日（日）第19回女と男とのハーモニーフェスタが開催されました。

天候にも恵まれ、約350人が来場され、トークショー開催まで、そば打ち体験・今年初めての試みのフリーマーケットもあり、早々からにぎやかな始まりとなりました。



今回は例年の講演と異なり、各専門分野で長年活動してこられた4人の方のトークショーで始めました。「最近のお父さんは“イクメン”として子育てに取り組み、パパ友の輪は地域へと広がっている。十数年前には見られなかったが、近年では保育園の送迎の7割はお父さんである」という安藤さん（NPO 法人ファザーリング・ジャパン代表）のお話に時代の変化を感じました。

～男もHAPPY～というテーマに関連して、出演者の一人から「仕事人間として家庭を振り捨て突っ走ってきた男性は果たして本当に幸せだったのか」という疑問が投げかけられました。子どもを育てる事、介護する事は人として相手と向き合い、豊かなときを過ごすことだという考え方を受け入れられない世代がおられるのも現実です。

家族のあり方が大きく変化していく中、介護者の3人に1人が男性で、100万人の男性介護者が存在する現在の状況は予想できなかったそうです。メディアでも介護や子育てを切実な問題として取り上げてい

ます。このトークショーを通して介護や育児に関わっている男性の生き方を知る事で、新しい生き方を考える機会となってほしいと思いました。



男女共同参画の視点で自分を見つめるといことは、あらためて今の社会をどう生きていこうとしているのかという自身の生き方を問い直すことになるのだとつくづく感じました。

岸本編集員

実行委員長 尾崎かおるさん挨拶

鳥取市男女共同参画フォトコンテスト

家庭、地域、職場などあらゆる分野で、互いが認め合い、性別に関わりなく自分らしい個性や能力を発揮できる社会をイメージさせる写真を募集しました。

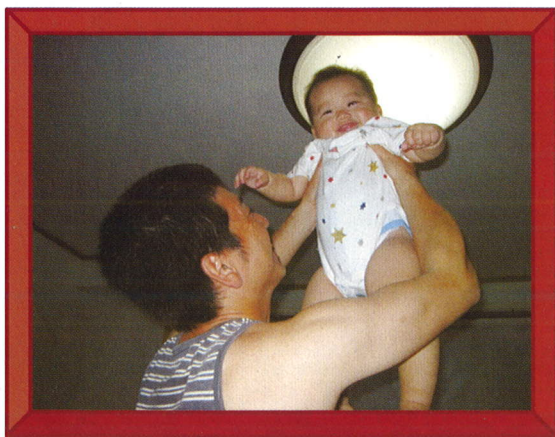
今回は、28点の応募があり、審査の結果、8作品が入賞に選ばれました。入賞者は9月25日に開催された「第19回女と男とのハーモニーフェスタ」において表彰されました。

最優秀賞



お父さんご飯まあ〜だ？
山崎かおりさん

優秀賞(2作品)

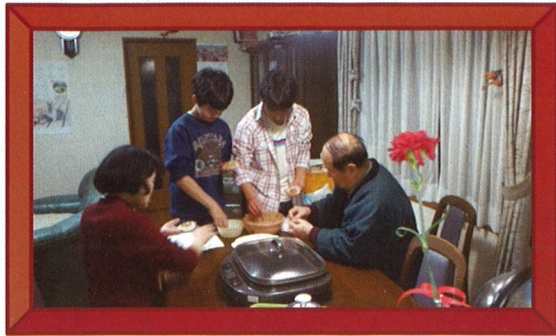


高い、高い
西村 陽子さん



「お母さんいなくても大丈夫」
池井 弥生さん

入選(5作品)



おじいちゃん、おばあちゃんとギョーザ作り
河藤 敏子さん



小さい時から共同参画の心を
吉村 文夫さん



実りを願って
松井 功さん



植木の手入れ
中尾 昭雄さん



わたしもお手伝いする
水本千賀子さん

鳥取市では『男女共同参画都市鳥取』を高らかに宣言するなど『男女共同参画』を重要施策として取り組んでいます。

皆さんも、この写真を通して、学校、職場、地域、家庭から男女共同参画について考えてみませんか。

今回は“鳥取市次世代育成優秀企業認定 株式会社 原田建設”を訪問しました

おじゃました早々「男女共同参画って特別なことですか」とにこやかにいわれた山本さん（総務部長）。確かに特別な事ではないかもわかりませんが、特別視している風潮があるようにも感じます。

今回はそんな驚くような事をしていないといわれる（株）原田建設 山本さん（総務部長）にお話を伺いました。

【会社の従業員の構成は？】

* 47人の社員のうち事務職の4人が女性です。
年齢的には30代~40代が多いですね。

《休業について》

【育児休業や短時間勤務制度があっても、実際に取得するとなると難しいのではないですか？】

* 経営者トップが制度を推進しているので利

用してもらっています。また、まわりの従業員でカバーし合っています。育休中の従業員がいても、その間だけというような形では採用をしていません。来てもらった人にも悪いし、従業員が帰る場所がある方がいいですから。弊社のいいところだと思っています。



株式会社 原田建設
所在地：鳥取市数津62番地2



取材風景
山本さん（総務部長） 岸本編集員

【育児休業や短時間勤務をされると業務に支障をきたす事はありませんか？】

* 制度利用の休業に限らず、社内においてお互いがカバーしあえるようにしていますし、自然にそんな雰囲気ですね。

例えば、体調が悪いから休むというような休暇でも電話を受けた従業員が代わりに休暇願など記入したりしますよ（笑）。いつも健康とは限りませんからねえ。

取材を終えて

変わらぬ笑顔で話される山本さんに職場環境の良さを感じ、特別な事をしていないと言われた言葉に驚いた。私こそ男女共同参画についてさらに学ぶべきだと思いつつ取材を終えました。

担当者



東部初の女性消防士に聞きました。

ひとひと インタビュー女と男

鳥取消防署 加藤 貴子さん



東部の消防署としては初の女性消防士である加藤さんは、救急救命士の資格を持つ入署2年目の消防士。

多くの質問をさせていただき感動することばかりでしたが、一番心を打たれたのは、消防士の道を選ばれた理由が「人を助け、喜んでいただく仕事がやりたかった」ということでした。

念願の消防士となり、現在、最前線に立つために訓練を積む日々の加藤さんは、「男性消防士とは必然的に体力の差があり、歯がゆさを感じるが、今は早く一人前になることが目標。でも、経験を積むことイコール救助する現場に出動する事であり、事故や災害が起こって欲しくないという思いとの間に矛盾も感じている」また、「現場に出たとき、女性であることを『女性ならではの』の長所に変えていきたい」と心の思いを話してくださいました。



恋愛や結婚は？と質問すると、「もちろん、恋愛も結婚もしたいし、出産も経験したい」と女性らしい一面をのぞかせた後、「私が辞める時は定年の時です」と答える加藤さんに信念の強さを感じました。

「やりたい仕事に就け、疲労感より充実感の方が大きい」と眼を輝かせて話される加藤さんから元気をもらい、今後もっと女性の救急救命士や消防士が増えてくれたらと思いつつ消防署を後にしました。

出村・伊藤編集員

取材風景

左から伊藤編集員、加藤さん、出村編集員

加藤さんのインタビューを終えて

意欲に満ちいきいきと輝いている姿、また前向きでプラス思考の考え方に共感を覚えた。話を聞いていてすがすがしい気持ちになれた取材となりました。

編集委員 出村

き
輝なんせ鳥取

鳥取市男女共同参画センター

〒680-0022 鳥取県鳥取市西町2丁目311

TEL (0857) 24-2704

FAX (0857) 20-3054

E-mail danjyo@city.tottori.lg.jp

U R L <http://www.city.tottori.lg.jp>